平成３０年度インターンシップ報告集

あこがれの手

第１９号

（平成 29 年度卒業生　鈴木　一輝さん撮影）

『あこがれの手』という表題は、平成１３年３月に卒業した梶川千恵子さんのインターンシップ体験文の中の言葉から付けられたものです。とても素敵な響きがします。さまざまな物を運んだり、作ったり、人に指示したり、人を優しく眠らせたり、そして言葉をも語ったりする手は、人間活動を象徴する身体で、梶川さんはその特性を見事に捉えて表現してくれました。

キャリアプランニングができる学校

校長　村瀬　正幸

今年、創立 67 年目を迎える一色高等学校は、キャリアプランニングができる学校作りを旗印に、様々な教育計画の整理・整頓を進めています。これまで、多くの保護者・同窓生・地域の方々に支えられ歩んできたことを誇りに思い、また新しい時代の変化にも対応できるような学校作りのキーワードが、この「キャリアプランニング」です。

高校卒業後の進路選択は、就職や専門学校、大学進学など多様です。しかしながら、近い将来、誰もが職業人となり、地域の中に自己の生活基盤を築いていくことは共通しています。

「キャリアプランニング」とは、「ありたい自分の実現計画」といってよいでしょう。将来の自分の夢や目標を明確にし、どのようにそれを実現させていくのか、その道筋を生徒の皆さんと学校・社会が共有し、少し先を見ながら必要な手立てを適切に講じていくことが必要です。

「キャリアプランニング」を考える際の大切な取組の 1 つが、このインターンシップです。本校はこの活動に 20 年の歴史をもち、今年もハローワーク西尾、商工会と各事業所の皆様に大変お世話になり、非常に貴重な体験をさせていただきました。関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、この体験を通して生徒が学んだこと、感じたことを「あこがれの手」第 19 号にまとめましたので、ご高覧のうえご指導いただければ幸いです。

このインターンシップの取組を契機として、生徒のキャリアプランニング力が高まることを期待しています。関係の皆様には、キャリアプランニングができる学校作りに向けて、相変わらぬご支援、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

アイシン機工株式会社　　（西尾市吉良町）

普通科　　２年２組　　田島　秀英
（安城市立安城西中学校出身）

僕はインターンシップで、アイシン機工に行きました。インターンシップに参加した理由は、僕は将来トヨタ系の自動車部品製造の会社に就きたいと思っており、どんな仕事をしているのか間近で見たかったので参加しました。インターンシップは３日間行きました。

１日目は、会社の説明や、検査の器具の取り扱いの説明を受けました。アイシン機工は、主にオートマチックトランスミッションの部品を製造している会社だと知りました。検査器具の取り扱いでは、ノギスという長さを測る器具を使って部品の幅の長さを測りました。ミリ単位の長さを測るので、少しもずれないように測るのが難しかったです。次に安全教育を受けました。工場の中で気をつけることを説明してもらいました。工場の中は機会がたくさんあり、とても危険な場所ということがわかりました。次に工場見学をしました。工場の中はとても広く、たくさんの人が働いていました。床は油で滑りとても危険でした。２日目からは、工場の中で働くので安全に気をつけたいと思いました。

２日目の実習では、工場の中はどれだけ危険かということを体験させていただきました。機械が不具合を起こしたと思ったらまず「止める、呼ぶ、待つ」ということを守るようにと教えていただきました。アイシン機工は、部品を作るために鉄を削って部品を作り、その削って出たくずを片付けるときは、手でやらずにニッパーなどで片付けるように言われたので、そのことを守って仕事に取り組みました。私が体験した仕事はライン作業です。部品をラインの上に置くという作業でした。気をつけたことは、動いているときに手を近づけないようにしたことと、確認済みの印が書いてあるか確認したことです。そういうのを見逃すと、とても迷惑がかかるのでとても慎重にやりました。この仕事はずっと立ちっぱなしで足が痛くなりとても大変でした。アイシン機工で働いている人達は、毎日立ちっぱなしの作業をしていてとても大変だなと思いました。

２日目が終わって最終日の３日目を迎えました。３日目も２日目と同じライン作業をしました。３日目も２日目と同じことに気をつけながら作業に取り組みました。最後の日だったので絶対に怪我をしないように気をつけました。３日目はインターンシップでお世話になった人に御礼をして終わりました。怪我もなく無事に終えることができたので安心しました。

僕は将来就職を希望しています。今回のインターンシップはとてもいい経験になりました。この経験を生かして就職のことを考えていきたいと思いました。

普通科　　２年３組　　杉浦　晃至
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕はインターンシップでアイシン機工に行きました。初日には会社説明、検査器具の取り扱い、安全教室を受けました。会社説明ではアイシン機工が製作しているオートマチックトランスミッションやアイシングループについてのお話を聞き、作った製品がどのようになるのかなどを知りました。実物を見ることでいろいろな発見をすることができました。検査器具の取り扱いでは、ノギスやマイクロを使い、内径や外径の計り方などを教えてもらいました。この器具はとても細かいところまで計れるため、誤差などが出てしまいます。そのためしっかりとした使い方をしないと不良品を出してしまうことがあるので、とても大切な作業だということがわかりました。安全教室では過去の事故の例などで、指がとれている写真や足などがつぶれている写真を見せてもらいました。どの事故も自分の不注意によって起きた事故が多いらしく、常に注意して作業することが大切だということを学びました。初日は作業など体験せずお話を聞く時間が多かったです。しかし、私は積極的に質問することができず、上手くコミュニケーションがとれずに担当の人を困らせてしまうこともありました。

２日目は工場安全教育を受けて就業体験をしました。工場安全教育では工場内は油などを多く使っているため滑って怪我をしたり、切粉などでどこかを切ったりするなどいろいろなところに危険があります。自分が怪我をしないようにコンベアや切粉の危なさを竹や手袋を使って知ることができました。就業体験では材料投入の作業を体験させていただきました。ずっと同じことの繰り返しだったので肩が凝ったり、立ち作業に慣れていないため足が痛くなったりしてしまいました。２日目は初めて作業を体験してみて、軽い仕事ではありましたが、大変だということがわかりました。

３日目は一日中就業体験をしました。作業は２日目と変わらず材料投入でした。３日目は慣れない立ち作業なので姿勢が悪くなってしまったり壁にもたれたりしてしまいました。しかし、工場の中で働く人たちは立ちっぱなしや走りっぱなしの人ばかりなのに、壁にもたれることなく作業していてすごいなと思いました。３日間のインターンシップを通して工場内での仕事内容など、いろいろな仕事を知ることができました。また、社員の方はとても優しく話しかけてくれたので楽しくインターンシップを終えることができました。

これからの自分は、積極的にコミュニケーションをとり、自ら行動できるように頑張っていきたいです。

株式会社　イナテック　　（西尾市鳥羽町）

普通科　　２年２組　　糟谷　弦汰
（西尾市立吉良中学校出身）

僕がインターンシップに参加した理由は、高校卒業後に就職したいと考えているにもかかわらず、どこに就職したいのかまったく見当がついていなかったからです。また、愛知県は自動車関係の会社が多いので、その仕事内容が知りたく、体験してみたいと思いました。

今回僕は、イナテックで体験させていただきました。イナテックの企業理念は、「確かな技術と磨かれた心で社会に貢献」でした。初めて会社の企業理念を聞いたときは、よく分からなかったけれど、話を聞いていくうちにだんだん分かっていきました。特に印象に残っている事は、「掃除」「座り方」「ＫＹＴ」の三つです。

一つ目の掃除は、毎朝社員全員でやっていました。全員でやる事で、コミュニケーションを図ることができます。また、現場の問題点の共有化や、現場の状況を知ることができます。それは、同じ時期に導入した機械のうちの一つから油が落ちていたとします。毎日掃除をしていると、その機械のどこから油が落ちているかが分かります。そこで、同じ時期に導入した他の機械も、油もれがあるかもしれないということにつながります。そのことから、同じ時期に導入した機械を、気をつけて扱わないといけないという問題点を共有できます。

二つ目の座り方は、人の話を聞く時、姿勢に気をつけていたということです。話を聞くときは、腰を立てて、相手の目を見る。他にも腕を組まない、ひじを机につけないなどです。また、座り方は、背もたれに背中をつけずに座ります。その座り方は、疲れるけれど、その疲れを我慢すると忍耐力がついて、なおかつ健康にもなれるということです。自分もやってみたいと思いました。

三つ目のＫＹＴとは、Ｋ（危険）Ｙ（予知）Ｔ（トレーニング）です。工場では、常に危険と隣りあわせなので、自分の身は自分で守る行動をする必要があります。また、危険に対して臆病になることや、現場で何もしなくてもリスクは発生します。だからＫＹＴを常に意識して行動することが大切だということということが分かりました。

今回のインターンシップの体験を通して、現場での仕事は自分の思っているほど甘くはありませんでした。一日中ずっと立って同じ作業をすることに大変さを身にしみて分かりました。社員の人たちはこんなに大変な事をやっていて、これが大人なのだと思いました。また、自動車関係の工場がどんなところであるかや、意識したり気をつけたりしていることを知ることができました。これからの進路選択に生かしていきたいと思いました。

株式会社　オティックス　　（西尾市中畑町）

普通科　　２年３組　　榊原　礼
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕は、オティックスという事業所にインターンシップという形で体験しに行きました。オティックスは比較的に大きい企業ということもあり、とても不安になりました。

実習が始まって、いざ工場内に入ると、工場内の雰囲気や大人たちに圧倒されてしまいました。ですが、三日間お世話になる所なので頑張って実習していこうと思いました。

１日目は工場内のルールや安全について学びました。工場内では、刃物や乗り物をたくさん扱うので危険がいっぱいです。だから、安全面には注意して作業をしようと思いました。

作業が始まると孤独感を感じました。基本的に製造業などの仕事は一人で同じ作業を黙々とやる場合が多いので、一人で判断して行動しなくてはいけません。この様な事をしたことがなかったので、慣れるまでが大変でした。そして大人たちに圧倒され、最初は上手くコミュニケーションが取れませんでした。コミュニケーションが上手く取れていないと事故につながる可能性があると僕の担当の方が言っていたので、二日目からはコミュニケーションを積極的にしていこうと思いました。

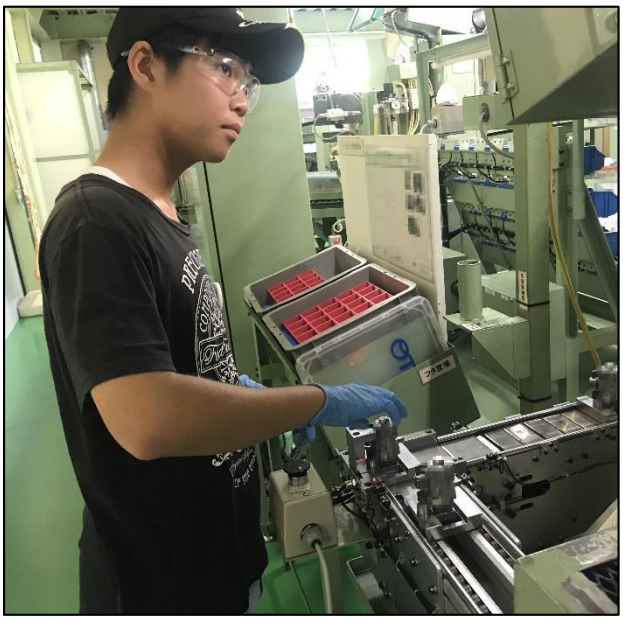
２日目からは、がっつり朝から夕方まで作業でした。午後になるにつれて足が痛くなり、集中力も続かなくなっていきました。二時間おきに休憩がありますが、合計八時間作業をしているので、とても疲労感がきます。僕は忍耐力が無いのだと痛感しました。この様な仕事において忍耐力はとても大切です。忍耐力が無ければ同じような作業を繰り返し行うための集中力が続かなくなり、仕事の効率が悪くなります。ライン作業のような仕事は、一人が止まると全体が止まってしまう場合があるので、止まるのは僕だけじゃないと意識しながら作業をしました。

３日目では、作業に慣れてきたということもあり、三日間の内、一番効率のよい仕事ができました。効率よく仕事をすると気持ちに余裕ができるので、色々なことに焦ることなく落ち着いて対応することが出来ました。

体験を終えて、仕事の大変さを感じました。この様な仕事を、ずっとしている人たちがすごいと思いました。今まで僕は仕事ができると思っていました。ですが、仕事を体験してみて、僕はまだ仕事をする人間として未熟なのだと思いました。社会にでると、挨拶や言葉づかいなどの基本的なことが大切になってきます。中には、この様な基本的なことが出来ない人もいます。僕の担当をして下さった方は、すごく頭が良くても、すごく運動が出来る人でも、挨拶などの基本的なことが出来ない人は、だめだと言っていました。将来、僕も社会人になるので、残りの高校生活で、基本的な部分を直していきたいと思いました。この三日間は、色々なことを学んだ三日間になりました。

普通科　　２年３組　　鈴木　良紀
（西尾市立幡豆中学校出身）

僕は三日間、オティックスさんでインターンシップをさせていただきました。１日目、午前は森田さんに、オティックスのことをたくさん教えてもらい、軽く雑談させていただきました。知らなかった事もたくさんあったので聞いていて楽しかったです。お昼休憩になって、三日間利用させて貰う食堂に案内していただき、そこで食事をしました。料理の種類も豊富で、どれも美味しそうでした。会社の人たちを見ていたら、どの方たちも、食べるのがとても早くてびっくりしました。森田さんは、「工業とかやっている人は、食べるのが早い人達が多いのだよ。」と教えてくれて凄いなと思いました。午後になって、実習の始めとして、安全道場という場所で安全のマナーなどを教わりました。本当に危険だから気をつけて扱わないといけないということを改めて理解することが出来ました。



そして２日目、この日はいよいよ本格的なことをやらせていただく事になりました。２日目からは、オティックスのみなさんが朝一番にやっているラジオ体操にも参加しました。そして、初めてやらせていただく仕事場に行き、やることの内容の説明をしていただきました。教えてくれた方は、一色高校の卒業生だったので、気軽にコミュニケーションを取ることができました。その先輩が実際にやって説明してくれて、やってみましたが、なかなか正確にできずに困りましたが、先輩方が優しく指導してくれたおかげで、この日の午後にはほぼ完璧に覚えることができました。それと、僕の仕事場は、ほぼ女性の方で、外国人の方も多く、初めて入る時は、とても緊張しましたが、外国人の方が上手な日本語で話しかけてくれたので、とても安心し、楽しく仕事ができました。しかし、全員の方と話すことができなくて後悔しました。

３日目、この日は、午前は実習をさせていただき、午後はトヨタ会館の見学に行かせていただきました。実習では、２日目にやったことと違うことも出来ました。２日目にやっていた仕事はもう素早く正確に出来るようになっていて、新しい仕事は、少しの時間で覚えて完璧に出来るようになりました。どちらも大変でしたが、やっていて楽しかったです。午後の見学では、トヨタ会館で運転の練習用マシーンを体験させていただき、運転の難しさを学ぶことが出来ました。そして、展示されている車にも乗ることができました。人気の高級車に乗れて、とても感動し、写真もたくさん撮れました。この３日間で製造業では、技術もですが、素早く正確に出来ることや、ずっと集中して仕事することの大変さなどを学ばせていただきました。この三日間、とても楽しく体験をすることができて良かったです。製造のことについて、もっと学びたいと思いました。

阪部工業株式会社　　（西尾市中畑町）

普通科　　２年２組　　鈴木　慧哉
（西尾市立寺津中学校出身）

僕は、坂部工業さんにインターンシップに行かせていただいて、１日目は、工場見学と２日目に行う作業の仕方の説明などをしていただきました。２日目は、初日に行った鋳造製品加工のライン作業の１つ目を行いました。３日目も２日目と同様、鋳造製品の加工を行いました。

三日間、仕事をさせていただく中で一つひとつの作業工程の大変さ、重要性を感じました。ライン作業は七つの加工作業があり、そのうちの一つ目の仕事をさせていただきました。一つ加工するのに、１分２０秒ほどかかりますが、その仕事と同時に、鋳造製品の見分けをしなければなりませんでした。良品・不良品を細かく丁寧に見分けないと製品の不良を出してしまうので、しっかり見分けるように集中して作業しました。仕事を行う前は簡単な作業だと思っていました。しかし、見ているだけでなく、鋳造製品を正確に加工台に設置し、スイッチを入れ、加工している間に鋳造製品の見分けをするとは思ってもいませんでした。このような、作業経験のない僕からするとなかなか難しい作業だったので、初めはどうなるかと思いました。でもしっかり出来ていたと言っていただいたのでよかったです。

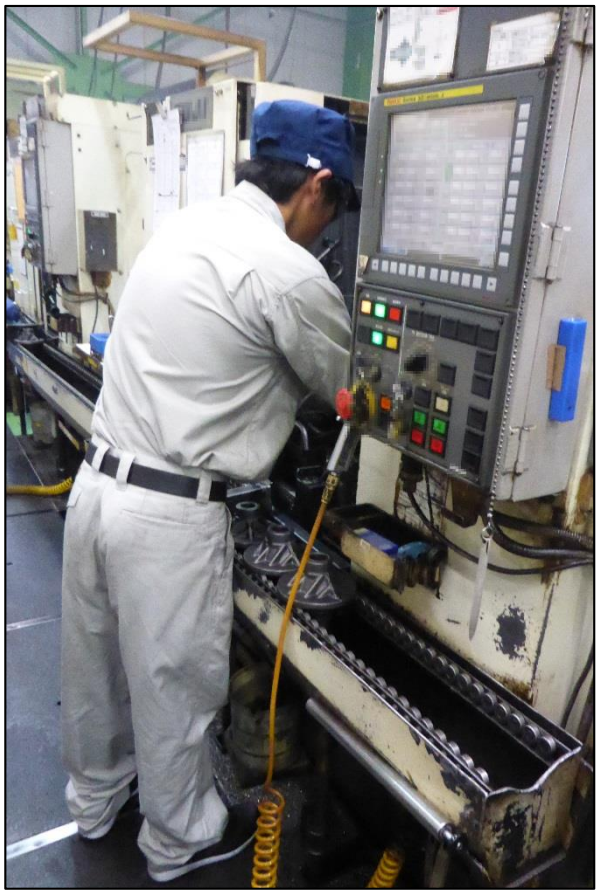
次に、インターンシップを通して学んだことは、一つ目は、ライン作業をしていて、最初の工程で不良品を出してしまうと、次の作業をする人に迷惑をかけてしまうということです。作業を行う際には自分の仕事に責任を持つ事、周りの事を考えなければならないと感じました。またどんなことでも正確性が必要です。正確に判断をする上で、集中力がないと間違ったものを送ってしまうので、集中力がとてもいることを学びました。

二つ目は、分からない事があったら、近くにいる人に自分から話しかけて聞くというのが大切であることも学びました。とても当たり前のことのように思いますが、いざというときに聞けないと大きな問題を招いてしまうからです。また、人に聞くと言うことにあたって、人間関係も大切だと学びました。

最後に、僕は就職をしようと思っているので、インターンシップはとてもためになり、これからの就職活動に向けていい経験になりました。就職をしたら、インターンシップで学んだことを生かしていけたらいいなと思いました。

普通科　　２年２組　　渡邊　修羽
（西尾市立一色中学校出身）

僕は今回の阪部工業さんのインターンシップで「働くことの大変さ」を知りました。特にラインの仕事では、暑い夏や寒い冬でも仕事をすることになり、精神的にも心身的にも鍛えられていないと仕事が勤まらないと思いました。三日間という短い期間のインターンシップでしたが、多くのことを学びました。



学校では、体を動かすことが少なく座学の授業が多いですが、現場ではずっと立ち続けて作業をしていて学校の授業とは全く違って身体ともに疲労していきます。働いてお金を稼ぐということは今までとは違い本当に大変だということを改めて認識することができました。

次に、「仕事に対するやりがい」について学びました。現場などの大変な仕事は、新しいことが覚えられるので、やりがいに繋がると思いました。

阪部工業さんには、本当に親切にしていただきました。現場について教えてもらい、機械の扱いを教えていただいて知識が増えました。

僕は、このインターンシップで仕事は辛いという印象から楽しいと思うようになりました。

今回のインターンシップで一番印象に残っているのは、仕事をしている人たちの真剣さです。休憩時間はみんな笑いながら会話していても、休憩が終わるとみんな真剣な顔になって、仕事に集中していました。このような切り替えができるところが、僕たち高校生と社会人の大きな差だと感じました。

僕は、初日とても緊張して作業になかなか集中出来なかった時、とても優しく声をかけてもらいました。そのおかげで初めてやる仕事にも集中して出来るようになり、時間が過ぎていくのが早く感じました。また仕事をするということが楽しく感じあっという間に三日間が過ぎてしまいました。

後一年したら僕たちも就職活動が始まります。その前に今回の経験で仕事をする大変さ楽しさまた社会人として必要なことを学びました。この経験を、これからの就職活動に生かしていき当たり前の事は出来る社会人になれるよう学校生活を送っていきたいです。

この三日間ありがとうございました。

柴田工業株式会社　　（西尾市下矢田町）

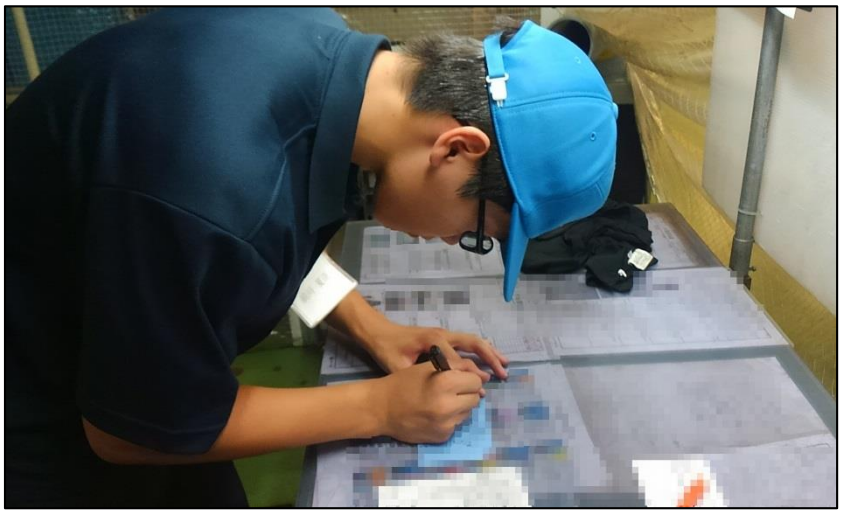
普通科　　２年４組　　前川　夏彦
（西尾市立平坂中学校出身）

インターンシップを終えて、僕が感じたのは仕事の大変さです。インターンシップに行く前は、工場での仕事はどんなことをするのだろうと少し不安でした。けれど実際にインターンシップに行って仕事を体験すると、とてもしんどくて驚きました。同じ場所を何度も移動して荷物を運んだり、重いものを持って作業したり、何時間もずっと立ちっぱなしでした。切削工場では、部品の洗浄や箱詰めや機械の点検など、やっていることは少なく思えるかもしれないけれど、どれも大変でした。冷感鍛造工場では、ものすごく暑い中作業をしていました。部品を箱から箱へ移し、重要な部品に傷をつけずに箱詰めをする作業はとても集中して行っていました。

暑い所で作業している中で、特に学んだことが二つあります。一つ目は、「安全」についてです。１日目に、安全指導を受けました。その時に講習をしていた方の話では、その方の親は、工場で指を三本なくしたと言っていました。チェーンが指にからまってしまったそうです。そういうことがあるので「工場には安全な場所は無いということを覚えておいてください。」と言われたことはとても印象的でした。周りのことに気をつけていても事故はおこるのだなと思いました。インターンシップ３日目、僕が荷物を運んでいる時に後ろにフォークリフトが走っていました。その時に気づかず後ろに下がっていたら、けがをしていたと思います。なので、日頃から周りに注意をはらって行動していきたいと思いました。

二つ目は、「それぞれの仕事の大切さ」です。柴田工業は車の部品を作っている工業です。なので、どれだけ小さい部品でも傷がついていたら不良品になってしまいます。みなさんが一つひとつ丁寧に作業しているのがひしひしと伝わってきました。

僕は丁寧に物事を進めていくことが苦手なので、インターンシップを通してたくさんのことを学ぶことができました。就職をする時にインターンシップで学んできたことを活かすためにこれからの学校生活も頑張っていきたいと思います。



株式会社　杉浦製作所　　（西尾市寺津町）

普通科　　２年４組　　稲垣　浩太郎
（西尾市立吉良中学校出身）

私は、７月３１日から８月２日までの三日間で多くのことを体験させていただきました。

初日は、８時から１１時までオリエンテーションとして、会社概要説明、実習内容説明、安全作業教育を受けました。会社のことを教えていただいたりする中で、海外にも進出していると聞いたのですごいと思いました。

１１時から１２時まで現場安全を受け、工場現場で起こりうる危険を学び、これから行う現場実習で注意しようと思いました。

１３時から１４時まで古居・本社工場の見学をしました。工場はとても広く、他の工場も同規模の広さだと思うととても驚きました。

１４時から１６時まで現場実習をさせてもらいました。初日は２時間しか体験できなかったので短い時間でしたが、現場で働いている多くの先輩方を間近で見ることができたことはいい経験になりました。

２日目は、朝からミスをしました。朝に集合する作業場に遅れてしまったことです。前日指示をされていたにも関わらず、話を聞き逃してしまったことが原因です。ミスを挽回しようと思い、１日目よりも気合いを入れて作業に当たりました。また、清掃作業では、人生で一番集中して掃除をしたと思うほどしっかりと行いました。

３日目は、午前中のみ現場実習だったのでミスしないことや、集中力を落とさないことを重視し作業に取り組みました。この日の体験で、自分の集中力は長くは続かないことを知ることができたので、このインターンシップはとても有意義でした。このインターンシップの三日間の体験で自分にあった仕事はどんなことも考えさせられました。これからの進路選択に生かしていきたいと思いました。

普通科　　２年４組　　杉浦　愛菜
（西尾市立寺津中学校出身）

実習１日目は、現場で仕事をするにあたって社会人として身につけなければならないことについてＤＶＤを見ました。ダンボールなどの荷物をカートに積んで運んでいるときに、床にゴミが落ちていることで荷くずれを起こしたり、下を向きながら荷物を運ぶことで上の荷物が落ちてきてしまったりする事例が紹介されました。不注意で荷物が落ちることで、製品がこわれるだけはなく作業員が怪我をしてしまうこともあります。そういった事故を起こさないためにどうするべきなのかを考えた後に、現場安全教室を受けました。その内容は、実際に杉浦製作所内で起きた事故の原因となった機械を用いて教えていただきました。事故の内容は様々で、軍手が機械に巻き込まれてしまった事例や、会社指定の安全靴ではない靴を履いたら物が足の先に落ちてきて靴が壊れてしまった事例でした。もう少ししたら命がなくなってしまうところだった事例もあり、安全にはよりいっそう注意を払わなければいけないなと思いました。

２日目は、現場実習で出荷の荷札づくりをしました。荷札には品番・型番、一箱に入っている部品の個数などを書きました。荷札の記入に間違いがあると大変なことになると思ったので、特にミスがないように注意して書きました。しかし、チームリーダーの角谷さんに最終確認をしていただいたとき、記入ミスを見つけていただきました。ミスがないよう気をつけていたにも関わらず、ミスをしてしまったので仕事は難しいと思ったと同時に責任をもつことの重大さに気づきました。

３日目は、１日目と２日目よりも工場内の気温が上がり、危ないということで午前だけ作業をさせていただきました。２日目と同じように出荷の作業をした後に簡単な作業を行いました。ボルトのねじの部分を切る前の形を作る工程でセットして一分間待ってまたセットをするという作業でしたが、物を作っているという感覚があってよかったです。その工程の際に切粉が残っていると正しいねじが作れなくなってしまうので一つ作った後に切粉が残っていたらペンチで取っていました。

三日間のインターンシップを通して、実習先の１１課の内田さんは、職場選びのポイントを教えていただきました。現場実習は実際に働いて見ないと、自分に合っているのかどうかが分からないため、今回の実習はその機会の一つとしてとてもいい体験をさせていただきました。内田さんの話によると、現場に合わなくて部署を変える人や、その仕事自体を辞めてしまって新しいところに就職することもあるようです。インターンシップに参加し、体験をしてみることで、自分の適性も分かりとても意義のあることだと思いました。仕事についてと仕事をするに当たっての安全について学ぶことができてよかったです。今回の体験を、就職先を決めるときに活かしていきたいと思います。

鈴木鉄工株式会社　　（西尾市山下町）

普通科　　２年３組　　若杉　亮太
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕は、三日間鈴木鉄工でインターンシップを体験しました。１日目は、Ns-tech.という西浅井の工場へ行きました。その工場は、とても大きくて、中は機械の油の臭いなどがしました。まず、工場の案内、説明を受けました。説明はとても分かりやすかったです。たった一つの部品を作る為にたくさんの機械や多くの人の手によって作られているということを学びました。その後は箱の仕分け作業と部品をチェックする機械の説明と部品を機械に入れる作業を行いました。この作業では部品を機械に入れる前に向きが合っているのかを確認します。この作業中、僕は失敗をしてしまいました。作業に慣れてきた僕は、逆向きになっている部品に気がつけませんでした。あのまま機械に入れてしまっていたら、機械が止まってしまうところでした。

僕が１日目に学んだことは、どの人も自分の仕事に責任を持っているということです。また、１日目の失敗から効率を上げることも大事だけど正確に作業をすることがとても大切だということを学びました。

２日目は、箱の清掃と部品の油拭きの作業をしました。１日目のようにミスすることなく、スムーズにできたと思います。２日目の作業は同じ作業の繰り返しだったので、一番速い拭き方や拭く順番を模索し、徐々に効率良く取り組めるようになりました。それと同時に作業するのもどんどん楽しくなっていきました。

２日目に学んだことは、作業の効率が上がると楽しくなるということです。

３日目の午前は、碧南工場に行き掃除をしました。担当の方に「ただの掃除かもしれないけど、それをしないとお客様が来たときに工場が汚い会社がいい部品なんて作れるわけないと呆れられてしまう。」と言っていました。それを聞いて、どんな仕事でもそれぞれが自分の仕事に誇りを持っているということを学びました。

最後に一色高校の卒業生の方から「君たちにはいろんな作業をしてもらったけど、どの仕事がどの仕事より大切とかはなく、すべての仕事が大切で、無くてはならないものなんだよ。」と言って頂き、僕が将来どんな仕事に就くか分からないけど、どんな仕事に就いても、自分の仕事に誇りを持てるように頑張りたいと思いました。

このインターンシップを通して、社会に出て仕事をすることの責任感と働くことの達成感を感じました。この貴重な体験を生かして、委員会や係の仕事など自分の仕事に責任を持っていきたいと思います。

普通科　　２年４組　　石田　雄大
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕は、三日間鈴木鉄工さんでインターンシップを体験しました。

１日目は、（株）Ｎｓ-tech.の方で現場案内・説明を受けました。初めて現場を見たとき、狭い中で機械がたくさんあって、たくさんの機械の音があり、耳栓をしないと耳が痛かったです。説明を聞いている中で１つの部品を作るためにいくつもの機械があることに驚きました。午後からは、機械に部品を入れる作業を体験させて村いました。単純な作業だと思っていたけど、部品に傷をつけては、いけないので機械に入れるだけで緊張しました。それだけではなく機械に部品を入れる際に、向きが上下逆のときがあり、そのままにしておくと機械が止まってしまうことを知りとても責任がある作業だと思いました。初日に学んだことは、一つ一つの作業に責任を持たないといけないことを学びました。１日目の反省点は、自分から進んで行動することができなかったので、２日目は、作業が中心なのでわからないことがあったら自分から聞くようにしたいと思いました。

２日目は、本社の現場案内・説明を受けました。説明の中で、一部の部品を海外へ輸出していてミスを犯すと輸出している国にも影響することを知り、より緊張感を感じました。午後からは、工場の中で作業をしました。作業の内容は、油がついた鉄の板を紙の油拭きで拭き取る作業でした。油の拭き残しがある状態と、その板に部品を入れると、さびが付いたり、汚れが残っていたりすると不良品扱いになるので拭き残しがないか、汚れがないか見直しをするように気をつけました。２日目を通じて学んだことは、より責任感をもって一つ一つの作業を丁寧にすることです。反省点は、自分から進んで行動できたけど疲れが出ると、作業の進み具合が遅くなってしまったので、３日目は、しっかり集中して取り組みたいと思いました。

最終日の３日目は、午前中は、碧南工場へ行き掃除しました。その日の午後にお客様が来ることになっていたので普段より気合を入れて、掃除しました。午後からは、本社で、プラスチックの部品入れをクリーナーで拭きました。黒ずみが多かったので、拭き取るのが大変でした。

この三日間を通じて、学んだことは、一つひとつの単純な作業や掃除でも無駄な事はない事を学びました。仕事は、責任感がとても大切な事も改めて感じることができました。今回の体験では、責任感の大切さを一番感じたので、普段の学校生活でも、自分に任された事は、しっかり責任もって行うようにしたいと思いました。

丸藤精工株式会社　　（西尾市鵜ヶ池町）

生活デザイン科　　２年１組　　芝　悠華
（西尾市立一色中学校出身）

私は三日間、リヤヨークという部品をプラスチックにはめて、空箱に入れ、部品の日にちが書いてある紙をはさむ作業をさせていただきました。

１日目は、作業が慣れなくて、部品を落としてしまったり、はめたのに向きをそろえた時に手袋に部品がひっかかったりしていました。でも、午後から慣れてきて、同じ作業をしている方から、速くなってきたねと言われたので、とても嬉しかったです。

２日目は、１日目よりも、作業を速くやり、部品を落とさないことを目標にしました。
作業は１日目よりも速くできたけど、部品を落としてしまったので、午後は落とさないように気をつけながら作業しました。２日目は作業している時に、近くにいた社員の方々が気さくに話しかけてくださって、コミュニケーションがとれたので良かったです。

３日目は、２日目より速く作業しようと、部品を両手いっぱいに持ち、プラスチックの上に置き、並べるようにしたら、速くできるようになりました。
梱包作業は、ずっと立っているので、足が痛かったです。しかし、新しい部品がくるので、速く部品を梱包しようという気持ちがあったので、頑張れました。
一緒に作業している方に「すごく速くできるようになったね」と言われたので、やる気が増しました。そして、部品も落とさずに作業できたので良かったです。

今回のインターンシップで学んだことは３つあります。

１つ目は、立ち仕事の辛さです。同じことを繰り返しているので、足が痛くなり、大変なことがわかりました。

２つ目は、仕事は、慣れた頃に失敗することです。慣れると気が緩んでしまって、部品を落としたり、紙をはさみ忘れてしまったりすることがあったので気を引き締めないといけないなと思いました。

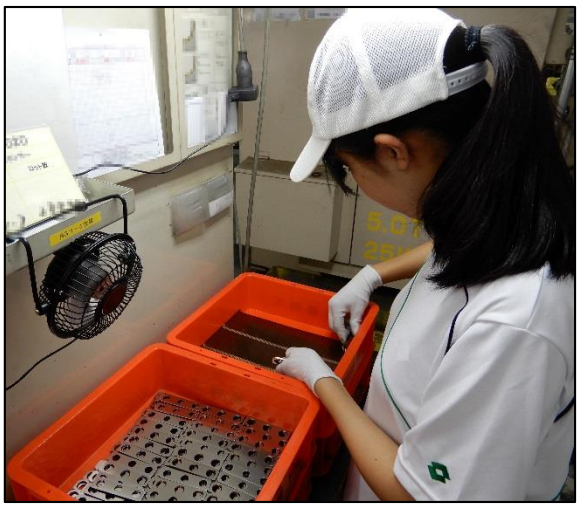
３つ目は、コミュニケーション能力です。社員の方の中には、外国人の方もいるので、英語を話せるようにしないといけないなと思いました。
今回のインターンシップで学んだことを学校生活で生かし、卒業後の就職先でも生かしたいです。

生活デザイン科　　２年１組　　吉田　梨乃
（西尾市立一色中学校出身）

私は三日間、部品の向きをそろえてトレーの中へきれいに並べるという作業を体験させていただきました。

１日目は、慣れていない立ち仕事だったのでとにかく足や腰が痛かったです。また、部品の向きをそろえるときに何度も落としそうになってしまったり、そろえたはずなのに向きが間違っていたりということが多かったです。他にも、トレーの向きが間違っていたということがあったので、合っているか不安になったら周りの人に聞くことが本当に大切だなと思いました。

２日目は、気が緩んでしまったせいか部品を落としそうになる回数が１日目よりも多くなってしまいました。また、どうすれば早くできるようになるのか考え思いついた方法を行ってみたり、周りの人と同じやり方でやってみたりして自分なりにコツをつかもうとしましたがあまりつかめませんでした。ですが、自分なりに一番失敗しにくくて少しだけ早くできる方法を見つけることができたので良かったです。



３日目は、１日目と２日目に比べてミスが少なかったです。２日目に見つけたやり方もだいぶ慣れて初めてやった時よりも早く向きをそろえられるようになったと思います。ですが時間を気にすることが多くなってしまい、あまり集中できていなかったのではないかと思いました。時間を守るために気にする事は大切だと思いますが集中できていないという事は気が緩んでいたということなのでこれは今後直していきたいです。

今回のインターンシップを終えて学んだことは二つあります。

一つ目はコツをつかむのは大変ということです。周りの人たちはとても手際よく作業を行っていました。それは各自コツをつかんだからであってたった三日間しかやっていない私が手際よくやる方法をできるわけありませんでした。やはりコツをつかむには長いことやらなくてはいけないと思いました。

二つ目は体験することの大切さです。今まで高校を卒業したら工場などで働きたいと言っていましたが、実際に体験して自分の適性についてもっと深く考えないといけないと思うようになりました。想像して勘で決めるということも大切ですが、できるなら体験してから何事も決めた方が後で後悔することが少なくなると改めて思いました。だから、これから進路を決める時に勘だけではなく体験していこうと思いました。

メイティックス株式会社　　（西尾市中畑町）

普通科　　２年４組　　川合　健斗
（西尾市立一色中学校出身）

私はこの三日間のインターンシップを終えて、働く上で楽なことは一つもないと感じました。

１日目は、まず会社のルール説明を聞き、会社のルールが記されてある紙をもらいました。そこにはたくさんのルールが書いてありました。なぜこんなにたくさんのルールがあるのか質問してみると、例えばトラックやリフトの事故が起きると、他社に迷惑がかかってしまいます。そうならないためにたくさんのルールがあるのだと聞き、仕事というのはそれだけ慎重に行っていかないといけないのだなと納得しました。

午後からは、１課の工場に入ってライン作業を行いました。人生で初めてラインに入って仕事をしました。同じ作業を何度も行っていると集中力がなくなってしまい、途中でミスをしそうになる時もありました。今まではライン作業はあまり疲れないのだろうと思っていましたが、実際に作業をし、同じことを何度も繰り返していると注意力が鈍り製品の不良化に繋がってしまうのですごく大変でした。

メイティックスでは、２時間に１回１０分間の休憩をするという時間配分なので、休憩までの時間は学校の倍になります。慣れるまでは本当に辛かったです。

２日目は、３課に入りました。３課でもラインに入って作業をしました。部品を機械に入れる際に、部品がしっかりセットされていないことに気付かず、少しの間ラインを止めてしまいました。しかし、そのとき隣にいた社員の方が私に、「大丈夫、大丈夫」と声を掛けてくださり、それ以降ミスをせずにこなすことができました。社会に出てからも助け合いは大切だなと思いました。

３日目は、生産管理課へ入りました。そこでもミスをしてしまいましたが、黙っていないで素直に報告しました。ミスをしてしまったせいで周りの方々に迷惑をかけてしまう、怒られてしまうと思い報告しづらい思いがありました。しかし、そこでミスが少しでも減るようなアドバイスを頂け、素直に報告できたことで気が楽になったので仕事としての責任が果たせてよかったです。

この三日間でたくさんの職長の方や、班長のミーティングを見学させてもらい、人を動かすことは本当に難しいことだなと思いました。私は野球部でキャプテンをしています。そこで人に指示するときに上から言い過ぎても、下から言い過ぎてもよくないので、この三日間で学んだことを部活動で指示をするときには活かしていきたいです。

普通　　２年４組　　永浦　幸樹
（西尾市立西尾中学校出身）

私は今回のインターンシップを体験させて頂いて思ったことがたくさんあります。特にその中でもここに残しておきたいと思ったことを２つ書きます。

まず一つ目は、全ての仕事に共通する事ですが、責任を持って仕事をするということです。メイティックスは車の部品を作ったり、他社が作った部品を加工したりします。そして、それをアイシンやトヨタに納品するのですが、ここで何かミスをしてしまうと、メイティックスの中だけでなく、他社の方々にすごく迷惑をかけてしまいます。なので、仕事を体験させて頂いている時は常に緊張していました。学校でも、自分がやると決めたことにはきちんと責任を持ち、最後までやりたいと思います。

二つ目は、会社の方々の優しさを知りました。私たちが困っていたり、質問したり、わからないことがあったりすると、上手に優しく教えてくれました。例えば、３日目の日に工場内で作業していた時のことです。私が作業を早く終わらせてしまい、イスに座っていると、「ガシャン！」と音がしました。その音の鳴る方を見てみると、社員の方が作業台を落としてしまい、部品がバラバラになっていました。上司の方が２人来て「大丈夫。大丈夫。」などの言葉をかけていました。落とした社員の方は少し焦っていましたが、上司の方々に慰めや、安心できるような言葉をかけられていて、落ち着きを取り戻していました。私はそれを見て、誰かのミスを責めるのではなく、誰かがミスをしたら、それをカバーし、それでもミスをしてしまうのであれば、一緒に怒られるような優しい心を持ちたいと思いました。その一方で、やはりきちんと叱らなければいけない時があり、それもひとつの優しさなので、きちんと叱ってあげられるような人間になりたいと思いました。

この三日間の自己評価は、満点だと思います。自分に甘いというのもありますが、きちんとした言葉遣いが出来、作業も黙々とスムーズに出来たからです。

貴重な体験をさせて頂いたことにとても感謝しています。有難う御座いました。

株式会社　あいや　　（西尾市上町）

普通科　　２年２組　　渡辺　梨子
（西尾市立吉良中学校出身）

私は卒業後就職するつもりですが、この機会にぜひ「働く」という体験をしたいと思い、インターシップに参加しました。そして、抹茶は西尾の特産品なので、それに触れることでこの地域についても知ることができるので、あいやさんを選ばせていただきました。

事前確認の電話は自分ひとりでかける勇気が出ず、学校の電話を借りてかけさせてもらいました。私は何かしらを行動に移すその時よりも、移すまでの方が緊張してしまうので、担当の方とのお話を始めるまでが緊張のピークでした。話す内容が頭に入っているだけで言葉の準備が整っていないところや、明確な文章が決まっていないところなどは、言葉に詰まってしまったり、言葉を口にした直後にきちんとした文章が思い浮かんだりすることが多々ありました。このことから事前の準備をしっかりしておかなかった自分の愚かさ、コミュニケーション能力の未熟さ、語彙力の乏しさを痛感しました。

１日目はまず、工場用のカッパの着方から工場に入るまでの工程を教わりました。工場に入ってからは袋にラベルを貼る作業をしました。母が内職でラベル貼りをしており、手伝うこともしばしばあったので、それなりにできたのではないかと思います。次は袋の形成をしました。少し難しかったので慣れるまでに時間がかかり大変でした。

昼休憩は人事部の方々とご一緒させていただきました。私は人と話すのが苦手で肩に余計な力が入ってしまいましたが、皆さんが親しみやすく話しかけてくださったのでリラックスすることができました。私もこのように気配りのできる大人になりたいと思いました。休憩が終わってからは抹茶の粉が入った袋の袋とじをしました。形を整えつつ空気を抜くのがとても難しく、教えてくださった職場の方々の手際のよさに感服しました。重労働をした訳ではありませんでしたが、腰痛や肩こり、足の痛みに見舞われて、日頃の運動不足と筋力のなさを改めて実感しました。

２日目は、別の袋の形成や缶の傷チェック、消費期限の印刷をさせていただきました。１日目と比べて少しは肩の力が抜けて、気持ちにゆとりを持って実習できました。

今回の体験を通じていろいろな体験をさせていただきましたが、これも数ある仕事、作業の一部でしかないと思うので、働きに出たときは一つ一つの内容をしっかりと把握し、極力周りの人の迷惑にならないよう、最善を尽くしたいと思いました。それに加え、コミュニケーションをとることは、良好な人間関係を築き職場の雰囲気を良くするだけでなく、作業の効率化にも繋がるということがわかったので、日頃から周りの人とのコミュニケーションを大切にしたいと思いました。

朝日理化株式会社　　（西尾市西浅井町）

生活デザイン科　　２年１組　　小田　明日香
（西尾市立吉良中学校出身）

私は、自分にあった仕事探し、及び朝日理化にはプラスチックに興味があったので、今回インターンンシップに参加しました。今日は、何をやるだろうと毎日胸をおどらせて家を出てい

ました。

７月３０日、初日の仕事は、物流でした。物流の仕事は覚えることが多くて大変でした。やることも難しそうだし、実際大変でした。私は、簡単でありながらも、責任重大な作業をやらせていただいたと感謝しています。最初に説明をして下さり、そして実際にやって見せて下さいました。物流とは、箱を運ぶだけかと思っていたけれど、全く違いました。パソコンで、品名と個数、日付、時間を入力する作業をしました。又、箱のところのカードがきちんと入っているかどうかや、他のものと入れ替わっていないかを見ていきました。暑くて大変でしたが、色々なことがわかって、とてもやる気が出て、意欲的に取り組めたと思います。午後は、違う仕事をしました。同じ物流の仕事ですが、座ってやる作業でした。書類を順番どおりに並べる作業で、エアコンのある休憩所でやりました。初めてのことで大変でしたが楽しくやれたのでよかったです。

２日目と３日目は、総務の仕事をやりました。総務の仕事は、机の上でやることが多かったです。責任重大なことをやっていることを実感しました。２日目の午前中は、まず、最初に清掃をしました。私は、外の道をきれいに掃きました。会社に来たら、１番最初に見るところなので、きれいにできてよかったです。道がきれいになり、人の役に立っていると思うと気持ちよくなってうれしかったです。次は、食事入力とチュックをやりました。パソコンでやりました。私は、パソコンが苦手なので、大丈夫かなと心配でしたが、思ったよりも簡単な作業だったのでよかったです。しかし、とても重要で大変な仕事でした。間違えたら、数が合わなくなったり、食べていない人が、お金を引かれることになったりするので、間違いは、絶対に許されないことだなと思いました。午後は、納品書まとめを次の日までかかってやりました。まず、納品書を同じ業者さんのものを集めて、日付順に並べる仕事をしました。そして次の日に、穴あけパンチで穴をあけてひもに通しました。穴あけ作業は、業者さんごとに集めました。多いのも少ないのもあり、多いのは穴が上手に空かなかったので、自分なりに工夫してやりました。

３日目は、清掃と納品書まとめをした後は、郵便発送業務をやり、午後から、仕分け入力チェックをやりました。色々な仕事をやらせて下さったので、とても楽しかったです。

三日間を通して、仕事の大変さと責任が求められることを学びました。そして、集中力の大切さも実感しました。残りの高校生活で今よりも体力をつけ、正確に誠実に仕事ができる、社会から必要とされる大人を目指したいと思います。

株式会社　岩谷電機製作所　　（西尾市東幡豆町）

普通科　　２年２組　　佐土　渉
（蒲郡市立蒲郡中学校出身）

私は、１日目に総務部と製造部、２日目に購買部と生産管理部、製造部、３日目に技術部と品質保証部、製造部で体験させていただきました。

総務部では、タイムカードに仕事時間と残業時間を記入する仕事や、弁当の注文業務やメニューの貼りかえ、広告の入れ替えの仕事をしました。この部署は、食堂のコップ洗いから、人事に関わる業務まで、幅広く仕事をしていることがわかりました。

製造部では、１日目と２日目は、２時間バリ取りを体験させていただきました。バリ取りとは、製造加工した後に加工した周りにでっぱりが出るからそれをとる作業のことです。３日目は、１時間３０分組み立ての作業をやらせていただきました。組み立ては、ずっと立ったままの作業のことだったので、安全靴になれていなく、とても足が痛くなりました。作業内容は細かい部品をネジとナットで挟んで止めることをやらせていただきました。ナットの表裏を間違えないようにとても神経を使いました。

購買部では、届いたものを箱に移す作業を体験させていただきました。説明を聞いた感じでは、今までに体験させていただいた作業の中で一番楽な作業なのかと思いましいた。しかし、やっていくうちにだんだん腰が痛くなってきました。やってみることで辛さがわかりました。仕事というものは簡単なものではないと痛感しました。

生産管理部では、お客様の注文商品をお届けするための伝票を書きました。四枚書いたうちの一枚を書き間違えてしまいました。しかし、担当の方から「一枚だけならすごいよ。」と言っていただいて、うれしかったです。

技術部は、製造するための設計図をパソコンで製作し、それを現場へ届けることを主に行っている部署です。ここでの体験はさせていただいてはいないのですが、「どんな質問にも答えるよ。」と言ってくださり、バリとは何かということとポンプの部品がどうして鉄ではなくて銅なのかという二点を聞きました。銅を使っている理由は、水が通るところだから鉄だと酸化しやすく、酸化しにくい青銅を使っているためだと答えてくださり、知識が増えました。

品質保証部では、お客様から調子が悪いので見てほしいと言われたものを実験し、悪かったところがあればその部品を交換し、異常が見られなければお客様の使い方の問題を指摘する仕事をしています。私は井戸からポンプで水を吸い上げる実験を手伝わせていただきました。実験では異常は見られませんでした。また、部品の品質調べでは、チェックするためのリングがあり、それを部品にはめたときにはまらなかったり、はまるけど抜けなかったりするかどうか探す作業でした。

最後に私はこのインターンシップを通じて感じたことがあります。それは、私の周りの大人が、私たちの学費やおこずかいなど、たくさんの苦労をして稼いでくれているということです。ですから、これからは今以上に親に感謝をし、より集中して勉強していこうと思いました。心から親に感謝をしています。

寿金属工業株式会社　　（西尾市法光寺町）

生活デザイン科　　２年１組　　山本　夕華
（西尾市立一色中学校出身）

私は今回のインターンシップで、寿金属株式会社さんにお世話になりました。
インターンシップを通して、仕事の大変さと社会人になるという事が分かった気がします。三日間は非常に暑かったですが、とても貴重な体験になりました。

初日は鋳造ラインでの作業をしました。加工前のアルミには削ってもまだ残っている部分があります。その部分に小さな玉を吹き付けてさらに滑らかに仕上げていきます。午前中はその作業を行うために、機械にアルミをセットするという作業でした。ただセットするのではなく、向きが決まっていて最初は難しかったです。しかし、作業をしていくうちに慣れて、楽しく行うことができました。午後は部品にキズがないか確認する作業でした。キズの判断が難しかったです。その点を社員の方に質問してスムーズに進めることができました。分からないことは質問するということの大切さを実感しました。１日実際に作業をしてみて、働くことの大変さを知りました。
特に慣れない立ち作業だったので、足が辛かったです。父も工場で働いているので、父の大変さも身をもって知ることができたのではないかと思っています。

２日目の午前中は仕上げ製品のダブルチェックを、午後は圧検をしました。ダブルチェックでは竹ぐしを使って鉄くずが残っていないかを３０箱以上検査しました。製品のダブルチェックは担当の方に優しく教えてもらい、どんどんやり進めることができました。この作業は集中力が途切れそうになりましたが、やりきった後は充実感を感じることができました。圧検も長時間立つ仕事でしたが、単純な作業でした。単純だからこそしっかり集中して作業を行い、時間が経つのがあっという間に感じました。圧検はレバーを押して圧力をかけ、不具合があった時は非常停止ボタンを押して知らせるという作業です。初めはどの音が不具合を知らせる音なのか分かりませんでしたが、担当の方にまた優しく教えていただき徐々に慣れて作業を進めることができました。

３日目は午前、午後とも同じ業務内容でした。仕上がった製品の最終チェックをする重要な仕事です。具体的には、紙の項目を満たしているかチェックし、合格不合格かをつけて再び製品を戻し、紙を貼るという作業でした。大切な仕事なので社員の方が主で作業をしていましたが、１日中集中力を途切れさせずに作業をしているのを見て凄いなと思いました。また、そのような大切な仕事の間にも優しく、とても分かりやすく説明してくださり嬉しかったです。仕事の合間には工場見学にも連れて行ってくださいました。さまざまな部署に分かれていましたが、「部品の型は違っても、やっている事は全部一緒だよ。」と教えていただき、基礎が大切だなと思いました。いくつか質問をさせていただき生産している製品の８０％は自動車のものであるという事、また不良品の判断基準なども聞けて、とても勉強になりました。

初めてのことばかりでとても大変でしたが、あっという間のインターンシップでした。私が携わった部品が自動車の一部になって日本を走るという事を考えると、とてもやりがいのある仕事だなと思っています。社会人になる前にとても貴重な場を設けて頂き、この経験を活かしていかなければいけないなと思います。

三日間、お世話になった寿金属工業株式会社の皆様、ありがとうございました。

普通科　　２年２組　　髙須　若那
（西尾市立平坂中学校出身）

私は三日間インターンシップで寿金属工業株式会社様にお世話になり、多くの貴重な体験をさせていただきました。まず、インターンシップでお世話になる前に、企業調べとしてどのような製品を作っているのか、従業員数や会社の歴史を調べました。調べていくうちに１９５３年創業で約７０年の歴史のある企業だということ、鋳造技術を生かし、さまざまな鋳造製品を作っている事が分かりました。

初日は、はじめに工場案内をしていただきました。その後、整理・整頓を意味する２Ｓについて、そして安全についての講習を受けて実際の作業に入りました。午前中はライン作業でした。私は大きな傷がある製品や、明らかに形のおかしい物をチェックする工程を担当しました。この工程はとても集中力のいる作業でした。また、現場はとても暑く適度に休む必要がありました。そのような中でも、担当の方の指導をしっかり聞き、責任感・緊張感を持って作業に取り組むことができたのではないかと思っています。午後はショット工程でした。１つ１つの部品が非常に重く、運ぶのが大変でとても印象に残っています。また、ショット工程は非常に危険な工程です。機械が動いている時に手を出し、部品に触ろうとすると自動的に停止する仕組みになっており、従業員の安全が守られているのだなと感じました。１日目は初めてのことばかりで社員の方々とうまくコミュニケーションを取ることができなかった事が反省でした。

２日目は１日目とは違った作業をさせていただきました。午前中はスロットルのダブルチェック、午後はマニーホールドの圧検をしました。ダブルチェックは切子や傷が無いかを確認する作業です。マニーホールドの圧検では機械に部品を置き圧力をかけて検査をし、不良品かどうかをチェックしました。初日の工程とは全く違い、危険な作業はありませんでしたが気を抜かずにやり切る事ができたと思います。初日と比べ、自分から積極的に行動できるようになり、社員の方々ともコミュニケーションが取れるようになりました。

最終日は出荷検査の作業をしました。チェック項目が多く１つ１つ見るのが非常に集中力のいる作業だったのを覚えています。さらに、次々と部品が届くのでその速さに焦ってしまう時もありました。出荷検査が終わった後は、工場見学に連れて行ってくださいました。製品の設計図から出荷検査の工程に来るまでの全工程を見学しました。多くの機械を使って大量生産をしており、テレビではなく実際に自分の目で見るその光景はとても凄かったです。「今は機械がやっているけど、少し前までは人間がやっていたのだよ。」と社員の方に教えていただき、とても驚いたのと同時に、１つ仕上げるのにどれくらいの時間がかかったのだろうと思いました。

三日間寿金属工業株式会社様へ行き、いろいろな工程の仕事を体験することができ、貴重な財産になったと思います。社員の方々ともたくさん話すことができ、社会人になるという事や仕事感についても考えを深めることができたのではないかと思っています。今後の生活に活かせることをたくさん学べることができたので、この貴重な体験を忘れず今後の人生に活かしていきたいです。

幡豆工業株式会社　　（西尾市寺津町）

普通科　　２年３組　　森園　若奈
（西尾市立鶴城中学校出身）

わたしがインターンシップでお世話になった幡豆工業さんでは、水に係わる製品を提供しています。

まず１日目は、安全教育を受け、工場見学などたくさんの説明を聞きました。安全教育では、安全を害する可能性のある行動の「不安全行為」と、事故の発生原因を作り出している状態の「不安全状態」について学びました。周りが見えていなかったり意識をしていなかったりすると、事故を起こしたり怪我をしてしまったりするので、第一に安全面に気を使うことが大切だということが分かりました。

２日目は、説明を受けてから仕上げ工程の作業に入りました。「異形管」という水道管路を曲げたり、分岐したりするための様々な形の管の検査をしました。わたしが担当したのは、流れてきた異形管についている蓋を外し、その蓋を外したところに付く塗装の皮のようなものをカッターやヘラを使ってとる作業でした。最初は、分からないことが多くて戸惑っていたけれど、質問をしたら優しく教えてくださりました。そのおかげで、ミスをすることなくできました。作業は思っていたより簡単だったけれど、その反面ミリ単位の傷や小さな穴などが見つかると、すぐに確認を取っているのを見かけました。提供した後、普段の生活の中使われるものなので、壊れてしまわないよう、入念にチェックをしていました。また、扱っているものがとても重たいものなので、流れてきた異形管は天井からぶら下がっているクレーンで移動をさせます。その際も、落として怪我をしないよう注意が必要でした。

３日目は、鋳物を使った表札造りを体験しました。発泡スチロールで型を作りました。鋳物を使う作業はとても危険なので、担当の方がやってくださりました。その後、スプレーとペンキを使って自分で塗装をしました。納得いくまで何度も乾かしては塗っての繰り返しをし、完成しました。担当の方や事務の方が完成した表札を見て、「きれいにできてる。上手いね」と、褒めていただけたのがとても嬉しかったです。ずっしりと重たい表札がきれいにできあがってよかったです。

この三日間のインターンシップを終えて、コミュニケーションをとる大切さに気づかされました。普段からコミュニケーションをとることで、作業上出てくる分からないことや確認のときに、スムーズに話を進めることができ、協力して作業をすることができると思います。また、挨拶の大切さも同じなのだろうと思いました。普段わたし達が生活する中で、身近なものの裏でこんなにもたくさんの人が汗、水流して働いているのを実際に見て、今当たり前に送っている生活もこの人たちがいないと成り立たないことに気づかされました。社会貢献をすることでやりがいを感じるのかなと思いました。

貴重な体験ができて今後の進路選択にも生かしていこうと思いました。

小出道治税理士事務所　　（西尾市一色町）

普通科　　２年２組　　長尾　華奈
（西尾市立一色中学校出身）

私は、インターンシップとして小出道治税理士事務所というところで、三日間、いろいろな体験をさせていただきました。最初に、なぜ、インターンシップを受けようとしたのかというと、それはただなんとなくでした。インターンシップに参加したほうが有利になると思い参加しました。しかし、この企業を選んだのには理由があります。私は高校を卒業した後、事務職に就こうと思っています。けれども、その職に就いた時に、自分が思っていたものとは違うと、続けることが大変になり、辞めてしまうことがあると思います。だから少しでも事務の内容を体験したほうが良いと思いました。また、私は情報活用コースで、ほぼ毎日パソコンを扱っており、授業で習っていることを少しでも生かせるかと思い、この企業を選びました。しかし、いざ仕事を体験してみると、やはり私がイメージしていたものとは違いました。

最初は、一日ずっと座っているから、立ち仕事より少しは楽だと思っていましたが、一日の仕事が終わる頃には、腰や肩、首などがとても痛かったです。特に腰の痛みはひどかったです。一日でこんなにたくさん座っていることがなかったからかもしれませんが、座っていることがこんなに辛いことだと思ってもいませんでした。

私が抱いていたイメージとは違うところがもう一つありました。それは、事務職は黙々とこなす仕事なので、あまり人と関わらずに済むと思っていたということです。しかし、実際は人と関わることが多く、コミュニケーション能力は事務職にとって必須だと思いました。お客様の電話対応はもちろん多く、それはつまり企業の顔になるということです。また、職場ではさまざまなタイプの人がいるので、そのような人たちとうまく関係を築いていくためには、コミュニケーション能力が非常に重要だと思いました。もし、不明な点や疑問点などがあったらすぐに自分から質問することで、仕事を円滑に進めることができます。だから、コミュニケーション能力は一番重要なことだと思いました。

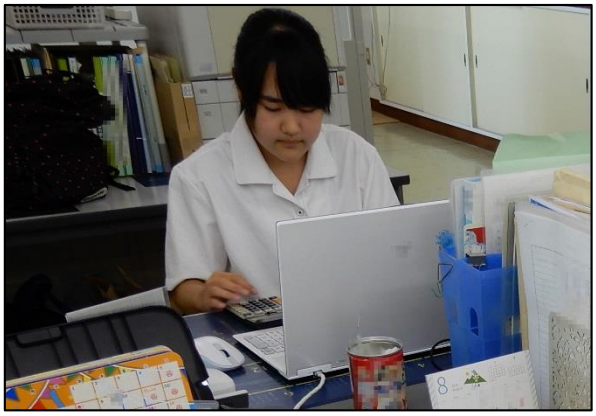
私の三日間の仕事内容は、領収書の整理、伝票の計算や打ち込み、総勘定元締めなどでした。こまごまとした仕事が多く、お客様情報の詳細などを処理したり、打ち込んだりしました。間違いがないようしっかり何度も確認し、確実に行わないといけないので、中々大変な作業でした。また、２日目には西尾税務署に連れて行ってもらいました。署長から税に関することをたくさん教えて頂きました。資格のとり方なども教えてくださり、役に立つ話をたくさん聞くことができました。一番心に残ったのは、「消費税は生まれてからなくなるまで、一生ついてくる」という言葉です。これほど身近な存在は他にはないと思いました。

三日間、お世話になった小出道治税理士事務所の皆様、ありがとうございました。

普通科　　２年３組　　清水　美花
（西尾市立一色中学校出身）

私は、三日間のインターンシップで貴重な経験を沢山させていただきました。

事務所では、領収書の整理、伝票に記入された金額の計算・データ入力、総勘定元帳の作成などをしました。どの仕事も、日付や金額、項目などを確認することが欠かせません。特に伝票は記入されたものと数字が合わなかったら最初から計算し直さないといけないし、データ入力をするときは、項目が沢山あって途中でどこを入力しているかわからなくなるなどかなり時間がかかってしまいました。慣れると早くできるようになりましたが、ずっと同じ作業をしているとたまにミスをしてしまうので、とても集中力のいる仕事だなと思いました。



１日目は、西尾税務署の見学をさせていただきました。署長さんとお話しして、普段は関係者しか入れない所も見学することができ、税金の動きや使い道、部署ごとの仕事内容などについて知ることができました。税金は、できることなら払いたくないと思ってしまいますが、自分ひとりぐらい、という考えで払わない人がいると社会がおかしくなってしまうのだということが分かりました。

三日間税理士事務所で仕事をして、事務職に対するイメージが変わりました。事務の仕事というと、堅くて静かなイメージでしたが、事務所の方も税務署の方も、楽しくコミュニケーションをとっていて、和やかな雰囲気でした。コミュニケーションをとることは、お客様との良い関係にも繋がるし、そこから信頼を得ることにもなるので、どの仕事においても大切なことなんだなと思いました。そして、色々な企業の方と話をする機会も多く、一日に何本も電話を取ることがあるので、臨機応変に対応する力も必要だなと思いました。

今回のインターンシップで、社会のために働くことの意識を高められたと思います。初めてやる仕事だから上手くできないことはありましたが、わからないことは積極的に質問し、少しでもスムーズに進められるように努力することができました。また、沢山のお客様の情報を扱っているので、しっかりと責任を持ってやることを心がけて仕事をしました。その分、ひとつの仕事をきっちり終わらせられると、達成感を感じることができて良かったです。

私はまだ将来就きたい職業は決まっていませんが、ここで学んだことを就職先選びや実際に就職した時などに生かしていきたいです。事務の仕事も、前よりも興味を持てたのでもう少し勉強してみたいと思いました。

（平成３０年１０月１２日発行　愛知県立一色高等学校）